

【P516, 7 行目～P517】

20 年間に社会状態が変わり（大工業と小規模、手工業、家内労働との不平等拡大）、工場法適用業種が増えた。さらに、工場拡張法と作業場取締法が勅裁され、家内労働まで拡大された。

特に工場法拡張法 7 条で夫の子供、妻に対する強制力も（罰金という）法的強制力の下に置いた。

※勅裁ちよくさい—天子てんし（君主、皇帝の一称号。旧憲法下の天皇）が直接採決すること。

（その公文書を「詔勅しよくちよく」）

【P518～同後 3 行】

工場法拡張法は、例外規定や、資本家との妥協もあった。

作業場取締法は、全ての細目で貧弱で、また実施の委任された官庁実施されなかった。そのため、議会在代理権を工場監督官に移したが、監督官の数が圧倒的少数で補佐が 8 人追加されたが用を足さなかった。

工場法が、一面（労働者階級の抵抗）で資本主義的搾取の過度に対する広範な処置することを議会在強制されたこと。他面（資本家階級）でこの処置の実行を阻んだ。という、資本家階級と労働者階級とのせめぎ合いが、議会在反映した。

【P518,後 2 行～P52, 5 行】

調査委員会は、鉱山業の取り締まりを提案。

他の産業と相違点が、地主の利害と産業資本家の利害が一致である。というのも一緒であるから。日本の鉱山も三井、住友、北炭と自分の山（土地）で採掘しているから。外国でも同じと思う。

工場法は、対立が好都合とは。地主が、法律制定側（労働者階級側）に立つから、労働者に好都合だ。

参考として「エンゲルスの 10 時間労働法についての 1850 年の評論」

10 時間労働法は、自由貿易に対する反動的反対者たちによって、地主、公債所有者、植民者、船主の諸勢力連合によって、貴族とブルジョアジーのうち、みずから自由貿易主義の鋼業家たちの優位をおそれる部分との連携によって、通過を見た。彼らは、工業家に対する憎しみから、自分たちに対する人民の好意を保証するとともに、工業家の社会的・政治的勢力の急激な増大を抑えるものとして、この法律を通過させたのである。

大工業の進出を押しとどめようとする反動派の悪たくみも働いて 10 時間労働法の成立を可能とした内容で「二つの利害の対立が好都合だった」とする本文と直接同じことを指すとは断言できませんが、参考になる一文です。

※他の資本論学習会の報告より抜粋。

1842年鉱山法。女性と10歳未満児童の地下労働禁止。

1860年鉱山監督法。10～12歳男児は、修学証明書または一定時間数通学するものの以外の使用禁止。

※「青書」P519、後7行—イギリス枢密院が刊行する報告書。白書と同意語
イギリスの法廷では、弁護人が唐突難解な反対訊問で証人を狼狽させ無理な証言をさせようとする。ここでは議会の訊問委員（多くは資本家）が弁護人となって、証人は炭鉱労働者。

【P520、6行目～P529、2行目】

以下項目ごとに資本家（側）質疑、労働者応答

1. 14歳未満の鉱山労働禁止の議会条例要望。
2. 教育の法律要望。
3. 鉱山での婦人労働廃止。
4. 検屍陪審官（労災死の裁判官）
5. 運搬桶の不正
6. 労災、監督官等の不足

【P529、3行～P532、3行】「この、工場立法は、極めて欠陥の多いものであるが、
鉱山従業児童の労働時間規制、災害についてある程度まで資本家に責任を負
わせる最初の法律」（P529、8行～）と評価している？

工場立法の一般化が、小規模の分散した労働過程から、大きな社会的規模で結
合された労働過程へ転化し、資本の集中と工場体制の専制を促進させる。

また、工場法の一般化は、資本家の隠ぺいした古い支配（搾取構造）を破壊し、
新たな支配（搾取構造）を強める。

よって、資本家に対する労働者の闘争も一般化する。

資本の集中・先験の一般化が、資本の支配に対する闘争も一般化する。

第10節 大工業と農業

大工業が、農業と生産担当者の社会的諸関係に及ぼす革命的作用は後の章で
触れるが、ここでは、結論的に簡単に触れる。

大工業は、旧社会の堡壘である『農民』を滅ぼし、賃労働者に転化させる。

※堡壘（ほうるい、ほるい）—石・土砂などで構築された陣地（とりで）

農業の機械使用は、労働者の過剰化（農業労働者から放逐し工場労働者へ）を
強く、反発なく行われる。それは、農村労働者が分散しており、抵抗する力が弱
いからである。

大工業の農業における革命的作用は、旧習の非合理的経営や古い家族関係を解体し、農村の社会的変革要求と社会的諸対立(階級闘争)は都市と同等となる。農業と大工業が結び付き、資本主義的生産様式を形成していく。

この資本主義的生産は、都市人口が優勢になるにつれて、社会の歴史的動力(労働者階級)を集積するが、一方で人間と土地の間の物質代謝を破壊する。一定期間土地の豊度を高める進歩は、逆にこの豊度の永続的厳選の破壊である。

資本主義的生産は、あらゆる富の源泉である土地と労働者を滅ぼすことによるのみ発展させることができる。